

講義名	専門基礎演習(人)			授業形態	
担当教員	瀧田 実	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

### 主題と概要

本科目の1～10回目の授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「聞く」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを基とし、受講の際に必要な能力から順に獲得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。指定した教科書のワークシートを用い、その時間をこなしながら実践的に行うものとします。

11～10回目の授業では、1～10回目までの授業で獲得した基礎的な能力を活用できる形で、担当教員が専門とする分野・領域に即した授業を行います。具体的には、・・・・・・航空産業におけるエアラインと空港を研究、特に「地方空港」の抱える課題と可能性(展望)について考察します。グループワークを中心とした学習方式にて授業を進め、航空産業への興味を深めるとともに、社会人基礎力を習得していきます。

### 到達目標

大学生としての学修(研究)に必要な基礎能力を身に付け、パソコンを使ったアカデミック・ライティングができるようになることを目指します。また、専門分野に関する学修の入口を理解することを旨とします。具体的な目標について以下に示します。

「大学で学ぶ」意味を理解できるようになる。  
 ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できるようになる。  
 レポート作成のための情報収集ができるようになる。  
 パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。  
 プレゼンテーションのための基礎的技術を習得できる。  
 最新の航空情勢を学び、航空会社や空港の基礎知識、今後の航空輸送事業を展望できるようになる。  
 地方空港の課題研究を通じて、新たな地域活性化へ向けた企画提案ができるようになる。  
 チーム活動を通じ、規律性、協調性、コミュニケーション力等を発揮して主体的活動ができるようになる。

### 提出課題

授業にて、随時ワークシート、課題小レポートの提出を求める。

### 課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

課題について授業内でプレゼンテーションの機会を取り入れ、発表という経験を通してクラスメートと一緒に改善点を模索し、次へのステップアップを図る。

### 評価の基準

ワークシート、課題小レポートの提出 : 50%  
 授業への参加姿勢(主体性・規律性・チーム協調性) : 30%  
 プレゼンテーション(独創性・完成度) : 20%

### 履修にあたっての注意・助言他

この科目は、仲間と協力しあって学習し、活動することになるのでチームワークが大切です。

### 教科書

.知へのステップ(第5版).	学習技術研究会	くろしお出版	1980	9784874247891
----------------	---------	--------	------	---------------

### 参考図書

.なし.				
------	--	--	--	--

### その他

必要に応じてプリント配布する。

### 授業計画

- 第1回: オリエンテーション、<第1章>「大学で学ぶ」とはどういうことか、タイムマネジメント
- 第2回: <第2章>講義ノートをとる技術
- 第3回: <第3章>文献を読むための基礎的な技術
- 第4回: <第4章>文献の内容を要約する技術、自分の意見をまとめる技術
- 第5回: <第5・6章>図書館の利用方法と文献利用の基礎技術、インターネットで情報収集を行う技術
- 第6回: <第7章>図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術
- 第7回: <第8章>レポート(論文)を書くための基礎的な技術
- 第8回: <第9章>わかりやすい表現技術
- 第9回: <第10章>WordとExcelを活用したレポート作成の技術
- 第10回: <第11・12章>プレゼンテーションを行うための基礎的技術
- 第11回: <概観講義>「エアライン事業について」、「空港の管理区分・特徴」、「空港行政と課題」
- 第12回: <概観講義・グループワーク>「世界のマルチ空港・国内のマルチ空港を調べる」
- 第13回: <グループワーク>「神戸空港を調べる」、「神戸空港の課題と展望」
- 第14回: <グループワーク>グループ毎討議、発表準備
- 第15回: プレゼンテーション、まとめと総括

### 授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア: PBL(課題解決型学習)	イ: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
<input type="radio"/> ウ: ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ: グループワーク
<input type="radio"/> オ: プレゼンテーション	カ: 実習、フィールドワーク
キ: その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

### 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

以下のことを予習(2時間)・復習(2時間)として学修する。  
 大学生として学修(研究)に必要な各種基礎能力の内容把握、確認  
 授業で指定する課題の整理、レポートの作成  
 グループ・自主活動調査に関する事前準備  
 発表に関する諸準備

### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

情報収集力・情報分析力を育み、人間社会学部特に求められる「実証的な調査研究の方法」に習熟する。

### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

授業の双方向性について、グループワークやプレゼンテーション等のアクティブラーニングを通して確保する。グループワークならびにプレゼンテーションの資料作成において、ICTを積極的に活用することを促していく。

### 実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」  
 航空会社での勤務経験(本社部門、空港部門、貨物部門、海外駐在など)を活かして、実社会での様々な経験・エピソードを交えながらチーム力のダイナミクスや重要性を紹介し、学生の連帯感醸成や各種基礎能力の伸長につき支援していく。

### 備考